

的洞察と呼ぶ。

5. 附 記

この第四話は、昨年の夏、気象庁で開かれた国際数値予報シンポジウムの席上で話したものである。最終日のパネルディスカッションで、主催者の Bates 氏から、何か力学的な話をと依頼されていたが、予報モデルの氾濫をまの当たりにして、用意してきた原稿を捨て、とっさ

にモナ・リザの話をした。英語は目茶苦茶だったかもしれないが、手応えはあった。壇から下りてくると、あの眨し屋のリンツェンが Good talk! と言って握手を求めてくれたのが印象に残っている。

あれから一年が経ってまた夏が来た。この夏休みも、あれこれ連想の翼をひろげて、秋学期にまた新しい譬え話で教壇に立ちたいと考えている。

「第34回風に関するシンポジウム」の開催のお知らせ

標記シンポジウムを下記により開催いたしますので、ふるってご参加下さいますようご案内いたします。

共 催：地震学会・土木学会（幹事学会）・日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会・日本流体学会・日本風工学会

開催期日：1987年12月1日（火）10：00～17：00

会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷1丁目無番地、JR・地下鉄「四ツ谷駅」下車3分、電話 03-355-3441番）

プログラム：（1講演討論を含め16分程度）

- (1) 大阪北港における自然風の乱流特性
小林紘士*（立命館大学）、川谷充郎（大阪大学）
- (2) 橋梁の耐風性に関する現地観測
横山功一・佐藤弘史*・東久保正徳（土木研究所）
- (3) 山岳地風の吹上角を考慮した架空送電線のジャンパー線横振れ理論の実証研究
水野康借・雪野昭寛*（関西電力）、山田有一・北西光雄（住友電気工業）
- (4) 強風による屋根瓦の飛散に関する風洞実験
岡田 恒・室田達郎（建築研究所）
- (5) 撫養橋（箱桁）の対風応答特性
植田利夫*（ニチゾウテック）、田中淳之・秋山晴樹（本州四国連絡橋公団）、宮下泰（日立造船）、尾関一成（滝上工業）
- (6) 単純化地形模型による局所風の風況の推定
宇都宮英彦・長尾文明*・平岡盾樹（徳島大学）
- (7) 風洞気流に含まれる低周波数変動について
谷池義人・奥田泰雄*（京都大学）
- (8) 粗度上に発達する乱流境界層内の気流性状について
丸山 敬（京都大学）

- (9) オホーツク海の流水上の風
内藤玄一*（防災科学技術センター）、佐々木保徳・浅沼市男（海洋科学技術センター）
- (10) 飛行機設計に用いる風モデルの考察
大嶋壮夫・会原正行・品川 貴*（富士重工業）
- (11) 寒冷前線前面の下層の強風について
松尾守昭（気象研究所）
- (12) 秋冬季に愛媛県西条市の石鎚山北部域に吹く局地風アラセの特徴
真木太一*・黒瀬義孝（四国農業試験場）
- (13) 風速の経年変化について
花房龍男*（札幌管区気象台）、能登美之・加藤真規子（気象研究所）
- (14) 地表面の粗さと風速値の補正
田村幸雄*（東京工芸大学）、須田健一（佐藤工業）
- (15) 風速の特性値推定に係わる曖昧さについて
山田 均*・柳原正浩（横浜国立大学）
- (16) 風力エネルギーの推進力への利用に関する研究
宮崎正男*・芳村康男・小保方準（住友重機械工業）
- (17) 閉鎖空間内の気流シミュレーション
吉川智明（気象研究所）、城 智子（CRC）
- (18) 二次元ラフネスブロックに発達する乱流境界層の数値計算に関する研究
大熊武司・丸川比佐夫（神奈川大学）、宮下康一*（風工学研究所）
- (19) 多次元風速変動のシミュレーションとその精度の検討
岩谷祥美（日本大学）

注：(1) 参加自由、参加費は無料です。なお、論文集は刊行しませんので、ご承知おき下さい。

(2) 懇親会は開催しませんので、ご了承下さい。